

新棟建設について

現在ばんたね病院では、外来棟、医局棟を解体し、新A棟を建設いたしており、地下1階に画像診断フロア、1階にER、内科外来、2階に手術室7室（現状より2室増）、3階に小児科、眼科、4階には新たに透析センター（仮称）を設置予定となっております。

新棟竣工後は、急性期病院として救急外来での重症患者の受け入れをさらに強化し、藤田医科大学の「断らない救急」を実践し、地域の救急医療高度化に貢献してまいります。

また、手術室を2室増設することで、様々な手術に対応できる体制とし、力を入れております内視鏡下手術の充実を図ってまいります。さらに、年々高まってまいります地域の透析医療のニーズに応えるべく、ベッド数21床の透析センターを設置し、高度な医療技術と併せて、充実した地域医療を提供していきます。

なお、既存の他の外来診察室も改修工事を行い、2023年7月に竣工予定です。



新棟予定写真

匿名加工情報の作成及び第三者提供について

○匿名加工情報の作成について

当院が保有する患者様の個人情報について、当院は、特定の個人を識別すること及び個人情報を復元することができないよう適切な措置を講じたうえで匿名加工情報として作成いたします。

【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】

・診療のために収集された診断画像

○匿名加工情報の第三者提供について

当院が作成または保有する匿名加工情報について、当該情報が匿名加工情報であることを明示したうえで、継続的に第三者に提供いたします。

【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】

・左記「匿名加工情報の作成について」における「匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目」と同一の項目

【提供の方法】

・紙媒体により当院内で配布および院外の医療施設へ郵送

・当院Websiteにて掲載

藤田医科大学ばんたね病院

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL

〒454-8509 名古屋市名川区尾頭橋3丁目6番10号

TEL 052-321-8171 FAX 052-322-4734 発行 広報委員会

QRコードで今すぐアクセス

ばんたね

検索



ばんたねニュース

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL



VOL. 48

2022年
6月20日発行

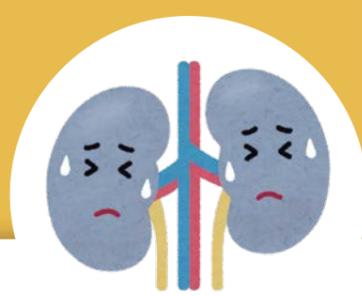
自動精算機のご案内

このたび当院では、診療費（外来・入院診）の精算方法を従来の有人窓口から「自動精算機」による精算に変更いたしました。これにより、従来よりも精算手続きをスムーズに行えるようになり、患者さんの待ち時間を短縮することができました。

なお、患者さんにおける会計の順序に変更はありませんので、診察や検査の終了後に、①外来会計（有人窓口）にお越しいただき、診療内容の確認後に②「自動精算機」で金銭の精算を行っていただきますようお願い申し上げます。（※入院診療費についても、請求書をお持ちの方は、そのまま自動精算機で精算を行うことが可能です。）

また、「自動精算機」の近くには常駐のスタッフがおりますので、操作方法でご不明な点等がございましたらお気軽にお声掛けください。





慢性腎臓病 について



私たちがばんたね病院腎臓内科は、患者さん個々の

1 腎臓病の疾患状況

わが国において、成人の約8人に1人に当たる1,330万人が、慢性腎臓病（CKDと呼ばれます）を患っているとされています。しかしながら、慢性腎臓病には自覚症状がほとんどないため、それに気づかない患者さんも多いことがわかっています。慢性腎臓病を早期に発見して、早期から治療することで、完全ではないにしても進行を防ぐことができるようになってきました。

では、早期発見するためには、どうしたらいいのでしょうか？慢性腎臓病と診断するためには、血液検査と尿検査が必要です。血液に含まれる老廃物（クレアチニン）の濃度から、どれくらい腎臓が働いているか（糸球体濾過量：eGFR）を計算できます。また尿蛋白が出ていることは、腎臓が傷んでいることを示しています。糸球体濾過量が60ml/分/1.73m²未満（簡単に言えば60%未満）であるか、尿蛋白が陽性であることが3か月以上続けば、慢性腎臓病です。



2 慢性腎臓病の予防

慢性腎臓病には原因となる疾患があり、糖尿病、高血圧ならびに脂質異常症などの生活習慣病が多くを占めます。したがって、慢性腎臓病を予防するためには、生活習慣病にならないような食習慣を含む生活習慣を心がけることが必要となります。また、すでに生活習慣病と診断されている方には、必要に応じて薬などを使って、しっかりと管理することが、慢性腎臓病を予防するための秘訣となります。



定期的に血液ならびに尿検査を行って、慢性腎臓病のチェックをすることが必要となりますので、現時点で問題のない方でも、最低1年に1回は健康診断を受けていただくことをお勧めします。

状態を考えたベストな治療を心がけています

3 慢性腎臓病の治療

まずは、治療がうまくいくためには、何よりも自己管理が重要です。残念ながら、今のところ腎臓の働きを改善させる治療はありませんが、適切な食事療法、運動療法に加え、腎臓の働きを助け、進行にブレーキをかける薬がいくつかあります。レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制薬やSGLT2阻害薬という種類の薬は腎臓を保護する働きがあります。また、慢性腎臓病に伴って発症する貧血に対して、赤血球造血因子作動薬に加え、最近HIF-PH阻害薬という薬が使えるようになりました。これらの治療を自覚症状が出る前の早期から始めることで、より効果が上がります。

以上のような治療を必要に応じて実施することで、慢性腎臓病の進行をある程度抑えることは可能ですが、腎臓の働き（eGFR）が10%未満になると、透析治療あるいは腎移植が必要となる場合があります。

4 ばんたね病院での診療紹介

ばんたね病院腎臓内科は、腎臓病に対して正確な診断ならびに患者さんにとってベストな治療の選択を心がけています。正確な診断には腎生検が必要となる場合がありますが、安全を第1に考えて実施しています。慢性腎臓病の原因を追究し、ベストな治療（画一的ではなく、患者さんの状況に合わせた治療）を実施しますが、患者さんならびにご家族の方々にしっかりと説明し、ご理解のうえで進めていくことを心がけています。

また、患者さんに慢性腎臓病のご理解を深めていただき、適切な食事療法や生活習慣を実践できるようにサポートする目的での短期入院を行っております。健康診断で腎機能が下がっていることがわかった時には、ばんたね病院腎臓内科を受診してください。

医師プロフィール



腎臓内科 教授/副院長
稲熊 大城 医師

患者さんへのメッセージ
私たちは慢性腎臓病の
早期発見に力を入れています!

【専門分野】
腎疾患一般・慢性腎臓病
骨ミネラル代謝異常・透析療法一般

【認定資格等】
日本内科学会総合内科専門医・認定内科医・指導医
日本腎臓学会認定専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医